

見える歴史の視聴を通して～歴史学習の総復習～

大阪府守口市立橋波小学校 松浦智史

1. 子どもの実態と培いたい「生きる力」

本学級の子どもたちは、社会科の歴史学習を6年生の1学期から2学期にかけて学んできた。その中で子どもたちは、歴史の学習に対して比較的楽しんで学習してきたようである。様々な問いかけには、グループで考えたり、個人で考えたりと一生懸命に取り組む姿勢が見られた。

しかし、その時その時の学習では一生懸命に考えまとめていたが、いざ振り返ってみると記憶に残っていることも少ないようである。教師の「この人物は、こんなことをやっていたよね！あの時、こんなこと考えたやん！」という「あ～、そうやった、そうやった！」と思いつくことも多い。つまり、子どもたちはその時の学習で分かったつもりでいても、時間が経つにつれて様々な時代の人物・歴史的事象がミックスされてしまったようだ。

そこで、もう一度、自らが学んできたことを整理し、学び直す機会を取りたいと考えた。授業では、時間の都合上で取り上げなかったことなども積極的に学んで欲しい。加えて、自ら学んだこと・発見したことをグループの仲間に伝えることで、更に学習に深まりを持たせたいと考えた。

歴史の学習において、「何のために学習するのか？」という問いに対して、子どもたちからは「常識だから・知らないと恥ずかしいし困る」と言った答えが返ってきた。しかし子どもたちがただ単に知識の詰め込みで暗記中心の学習にして欲しくない。子どもたちにとって歴史の学習が、「社会の発展に大きな働きをした先人の業績から自分たちが生活をかえりみつつ、未来の自分たちの生き方に役立つもの」であって欲しいと考えている。

【培いたい生きる力】

〔確かな学力（知）〕

- ・課題解決力 ⇒ 歴史上の人物の歴史的事象を整理する
- ・コミュニケーション力 ⇒ 自ら学んだことを仲間に伝える

〔社会とのコミュニケーション力〕

- ・共感的理解 ⇒ 将来の自分に役立ちそうなことを考える

〔豊かな人間性（徳）〕

- ・持続力 ⇒ あきらめず9人の人物を並べる

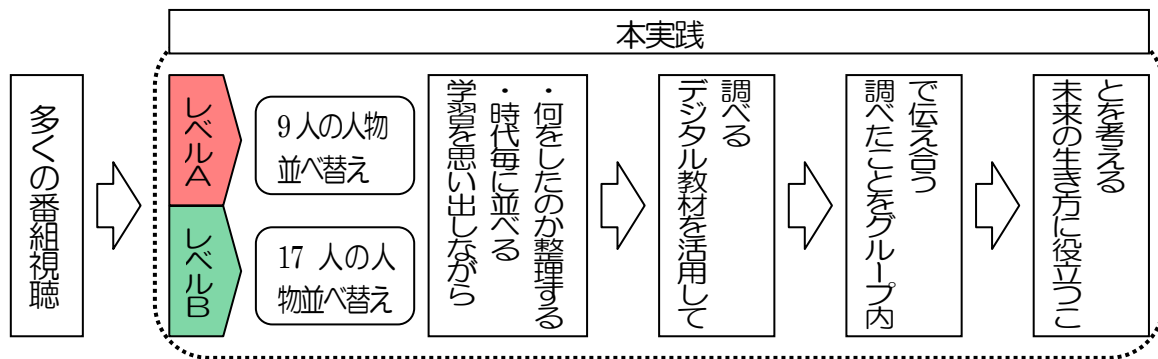
2. 番組について

本番組の特長は、番組の最初か最後に、大都会で今も見つかる縄文土器の発掘現場や、戦国時代の合戦の激しさを今に伝える古戦場などを取材した映像が流されていることである。これは、歴史が単なる過去の話ではないことを示している。つまり、このような映像は、社会の発展に大きな働きをした先人の業績を子どもたちの生活でかえりみるのに十分な材料であると考えている。

3. 実践

（1）概要

本実践では、1学期から2学期にかけて多くの番組視聴をしてきたことを踏まえて、総復習を実施した。教師がピックアップした人物に関して、子どもたちが歴史的事象を整理することとした。整理する際には、デジタル教材を活用して調べさせた。子どもたちは、タブレット PC を持っているため個々に調べ学習が可能となった。最後に未来の自分の生き方に役立つことを考えさせた。



(2) 内容

[並べ替え]

ピックアップした人物に関しては、レベルAの9人を基本とした。歴史の学習が好きな子どもに応じて、さらに8人を加えた17人をレベルBとした。それぞれの人物を時代ごとに並べ替えワークシート①に貼らせた。



[思い出して整理]

その人物に合わせて、学習したことを思い出して歴史的事象を書かせた。その際、資料として何も見せず、自分の力で書かせるようにした。

[デジタル教材]

デジタル教材で調べる人物を選び、ワークシート①の「付けたし」欄に書

かせた。その際、子どもたちは自分のタブレットPCを活用して「クリップ」や「ばんぐみ」を自由に活用させた。

[グループで伝え合う]

調べたことをグループ内で伝え合った。その際、自分で調べていなかった内容を教えてもらった時は更に追加して書かせた。

[未来の生き方に役立つこと]

調べた人物やそれ以外の人物に関して、未来の自分に役立ちそうなことを考えさせた。

4. 実践を終えて

歴史上の人物が何をしたのかを忘れていた子どもも多く、なかなか「何をした人なのか」を書くことができなかった。

しかしデジタル教材を活用して付けたしを加えていくことで過去の学習を思い出したようだった。また、グループの話し合いでも教えてもらうこともあり、自分の学習にプラスした深まりがあったようだった。

未来の生き方では、子どもたちはしっかり考えたようだった。少しでも自分の将来に行かせるように考えることができたのは、歴史の学習において大切なことである。